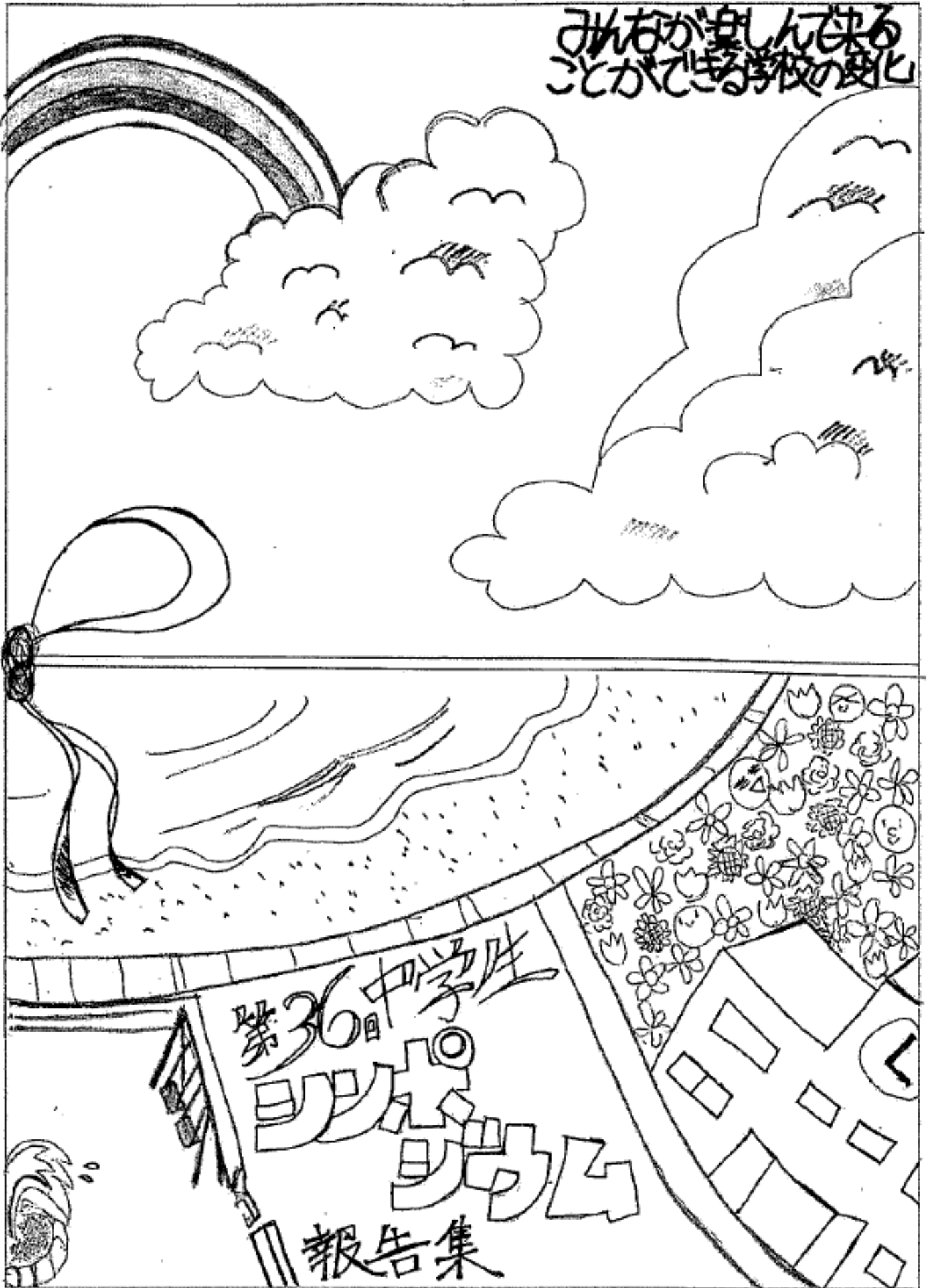


みんなが楽しんで来る
ことができる学校への変化



報告集

テーマ「みんなが楽しんで来ることができる学校への変化」

日時 令和5年（2023年）8月24日（木）14:00～

形態 参集＋オンライン

目 次

<ページ>

- ◇ 第36回豊中市中学生シンポジウム概要 1
- ◇ 開会にあたってのあいさつ 2
- ◇ 生徒実行委員会委員長 開会あいさつ 3
- ◇ 各中学校からの報告 4～15
- ◇ 質疑応答・意見交流 16～21
- ◇ 生徒実行委員会副委員長 閉会あいさつ 22
- ◇ 参加生徒の感想(Microsoft Forms) 23～24

第36回豊中市中学生シンポジウム概要

◇期日

令和5年（2023年）8月24日（水）14：00～

◇形態

ハイブリッド（参集＋オンライン）

◇テーマ

「みんなが楽しんできて来ることができる学校への変化」

◇役割分担

委員長	：第十七中
副委員長	：第七中
司会	：第十四中
記録	：第十三中
タイムキーパー	：第三中
会場設営・運営	：第十五中、第四中、第十六中
広報	：庄内さくら学園、第一中

第36回 豊中市中学生シンポジウム 理事あいさつ

みなさん、こんにちは。

豊中市教育委員会事務局から、一言ご挨拶申し上げます。

夏休み最後の日に、すべての中学校及び義務教育学校の生徒会執行部をはじめ、各校の代表の生徒らが集まって、このように中学生シンポジウムが開催されることを本当にうれしく思っています。

対面での開催は実に4年ぶりであり、今回、会場に入りきれなかった方にはオンライン形式でも参加していただいております。

7月には生徒会の代表メンバーで構成する『生徒実行委員会』をオンラインで開催し、皆さんからの積極的な希望のもと、委員長、副委員長などの役割分担が決定されたと聞いています。

さて、生徒会活動を進めるうえで、全校生徒の協力を得ることはとても大切なことです。このことは、皆さんも日々、実感されているのではないのでしょうか。今回のテーマである「みんなが楽しんで来ることができる学校への変化」について議論することを通して、各校の更なる活発な活動へとつなげていってほしいと思います。

ここに参加された皆さん一人ひとりの「思い」や「願い」は、豊中市の中学校の生徒会活動を力強く、前に進めていく原動力です。今年度は対面開催ですので、活発な意見交換を繰り広げ、有意義なシンポジウムになるよう大いに期待しています。

最後になりましたが、年度当初から、運営等に関しまして、ご指導・ご支援をいただきました各校の校長先生、副校長先生、教頭先生、生徒会担当の先生方に厚く御礼申しあげ、開会のあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

◇生徒実行委員会委員長 開会あいさつ

豊中市立第十七中学校

荒木 友花

連日の猛暑の中、夏休みが終わりにさしかかり、2学期がもうすぐ始まろうとしています。

お忙しい中、本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。

第36回豊中市中学生シンポジウムでは、

『みんなが楽しんで来ることができる学校への変化』

というテーマで、「校則」「給食」「他学年との交流」の3つの課題について話し合いをします。

先日行った生徒実行委員会で、校則については、制服と自由服、頭髮のこと、給食については、フードロスが多いこと、他学年との交流については、互いの間に壁があることや交流を制限してしまう校則があること等の現状があげられました。

最初から「自分達で楽しんでくることができる学校に変えることはできない」と諦めては何も変わることはありません。みなさんが一丸となって変えて見せるという気持ちを胸に今日のシンポジウムをより良いものにしましょう。

今年度から新型コロナウイルスの制限が緩和され、4年ぶりに多くの学校が集まって話し合うことができます。

また、企画委員担当校6校の発表も対面で行われるため、得られるものは大きいでしょう。各校が行ってきた活動や色々な意見、思いをたくさん伝え合い、全員で新たな道を歩みましょう。

本日はよろしく願いいたします。

◇各中学校からの報告

◆第一中学校◆

今回私たち一中の役割分担は報告集の表紙作成でした。シンポジウムで他校のみなさんと積極的に交流したいと思い、プログラム表紙作成の庄内さくら学園さんと表紙のコラボレーションをしてもらいました。プログラムの表紙からのリボンを結んで、鏡のようにしています。ただ、まったくの鏡ではなく、シンポジウムを終えて、たくさんの意見を交流し合えたことをたくさんの花が咲かせて表現しています。このように、普段交流できない他校の生徒会執行部の人たちと交流できていい経験になりました。

一中では校内ルールを見直していければいいなと思っていました。今回のシンポジウムでたくさんの意見を聞くことができたので、ぜひこれからの活動の参考にしていけたらいいと思います。

一中では、生徒同士の垣根を越えての交流として「ホナヤロカフェス」という、全校生徒が参加できるフェスのようなものを執行部主催で行っているということを報告してもらいました。このフェスは、1学期にすでに行っていて、とても盛り上がり、他学年の生徒同士のいい交流の場になりました。また2学期にも開催予定です。

◆第二中学校◆

- 生徒会スローガンの説明
 - 挑突猛進の理由や決まった背景や隠された思いを伝えました。

- 豊中二中の取り組みについて
 - あいさつ運動や、募金活動・体育大会での生徒会が主体となって行った取り組みを行いました。
他の多くの中学校で、あいさつ運動が行われていたので、良いところを吸収しつつ、もっと充実させていきたいと思います。

- ICT 機器の活用について
 - 二中では学校活動内で iPad を使う機会が多いですが、授業中関係ない時に触っている人がいるなどの課題があがっていました。学校生活の手引きにも「休み時間は学習に関することなど必要な時以外使用しない」としてはいますが、課題が残っています。
 - iPad について生徒会で明確にルールを決めた学校もあるとのことなので、生徒会からより iPad のルールについて検討し、生徒に通知することも考えてみるべきだと思いました。

- 給食について
- 二中では残食が多く問題となっていましたが、同じように味や量について改善を求める中学校や、意見を提出した中学校、逆にいつも余らない中学校など、様々な現状を知ることができて、よい機会になりました。
- 二中でも、二学期中に給食についてアンケートを行う予定です。

◆第三中学校◆

第三中学校生徒会執行部での活動

- ①毎週火曜日は正門、木曜日は南門でのあいさつ運動。(あいさつ運動時には、旗・ベストを着用、またベルマークの回収をしている。)
- ②あいさつ運動と同様、火曜日と水曜日に校内でお昼の放送。(主に生徒からのCDリクエスト曲をかけたりメッセージ、質問コーナー、〇×クイズなど、ラジオ風に行っている。)
- ③毎週月曜日に行っている定例会。(執行部メンバーが集まり今後の活動内容について話し合っている。)
- ④服装に関する校則の改定。(アンケートを取り服装強化週間を行い執行部メンバーでの話し合いの後、カッターシャツの上から直接カーディガン、ベスト、トレーナー等の着用可となる。)

シンポジウムで五中さんと十七中さんが行っていると話していた「犬派？猫派？」などの生徒会を身近に感じることが出来るようにするためのアンケートを三中でも実施したいと思った。他にもたくさんの発表の中で取り入れたいと思うことがあったので三中でも活用していきたい。今後も三中のためにより良い生徒会活動を行えるよう努力していきたい。

◆第四中学校◆

スローガン「心あたたまる四中を」を達成するための取り組み

○人との関わり

無意識の偏見や辛辣な言葉の使用をなくしていくために、生徒集会等で情報発信を行ったり、スクールカウンセラーの方にお話をいただいたりして、生徒の皆さんと相手を傷つけないためにできることを考えました。さらに、現在利用者が増えているSNSの使い方についての注意喚起も行う

ています。

○生徒が行う授業

学年ごとに決められたテーマについて話し合う授業を実施しています。

今起きている問題を他人事だと捉えないことを目指しています。

○四中夜間学級との交流

今後も、夜間学級に通われる方々と親交を深めていきたいです。また、50年の歴史をもつ大阪市内の2校の夜間中学が統廃合のため廃校になることについても、同じ学ぶ身として今できることに取り組んでいきたいと思いをします。

○豊中市立図書館

今まで行なってきた活動を機に四中生みんなが自分の意見をもてるようにしていきます。

シンポジウムを通して、他校の取り組みを知るとともに、関わりを持つことができてよかったです。

ありがとうございました。

◆第四中学校（夜間学級）◆

おおさかほくぶ ゆいいつ や かんちゅうがっこう とよなか し いけだ たかつき
大阪 北 部で唯一の夜間 中 学校で、豊中市からはもちろん、池田・高槻・
すいた みのお とよの とお かよ ひと ねんれい だい
吹田・箕面・豊能など遠くから通っている人もいます。年齢は 10代から 80
だい にほん かんこく ちゅうごく たいわん ね ばー ー ふ い り び ん い ん ど し り あ
代まで、日本や韓国・中国・台湾・ネパール・フィリピン・インド・シリア
など くに ひと いっしょ べんきょう や かんちゅうがくせい きょうつう
等、さまざまな国の人たちが一緒に勉強 しています。夜間 中 学生 の 共 通
おも まな べんきょう たの
の思いは「学びたい」「勉強 が楽しい」です。

よんちゅう や かんせい と かい きんき ほか や かんちゅうがっこうせい と かい とも しんにゅうせいかんげい
四 中 夜間生徒会は、近畿の他の夜間 中 学校生徒会と共に、新 入 生歓迎
しゅうかい うんどうかい さくひんてん と く おこな げんざい てんのう じ や
集 会や、運動会や作品展などの取り組みを 行 っています。現在、天王寺夜
かん ふみ さと や かん こんねん とまつ はいこう はなし こう ぞんぞく む
間と文の里夜間が今年度末で廃校になるという 話 があり、2校の存続に向
はな あ かつどう
けて話し合いや活動をしています。

きんき や かんちゅうがっこうせい と かいれんごうかい ぜんこく まんにん ぎ む きょう
近畿の夜間 中 学校生徒会連合会では、全国に約 90万人という義務 教
いく じゅうぶん う ひと きょういく けんり と もと
育を 十 分に受けられなかった人たちの「教 育をうける権利」を取り戻し、
や かんちゅうがくせい あんしん まな しよめいあつ さまざま かつどう おこな
夜間 中 学生が安心して学べるように、署名集めなど様々な活動も 行 っ
ています。

◆第五中学校◆

第五中学校です。テーマは「五中生どうしが関われる」「五中生みんなで作る生徒会」です。

生徒会執行部は学校の中で選ばれた存在で、その活動は他の生徒の手に届

かないところにある。そんな風に感じている生徒の皆さんも多いのではないかと日々の活動を通して感じる部分がありました。

なので、本校ではテーマである「5 中生同士が関われる」を発展させるための取り組みとして朝の挨拶運動をしています。多くの学校生活でもあいさつ運動は行われていると思うのですが、五中ではホワイトボードを掲げ、全校生徒を対象に2 択のアンケートをしています。五中生同士の会話を活性化させ、更に生徒会執行部との会話の輪を広めていけるように行なっています。

また、「五中生みんなで作る生徒会」も目標としています。本校では、五中生全員の意見を取り入れるためにさまざまな活動を行っており、その中に、箱ばこくんという意見集約のためのボックスがあります。投書してもらいやすくなるように、毎月『会心 IPPON』という取り組みを行っており、大喜利を学校で行っています。テーマごとにたくさんの投書があり、会心 IPPON だけでも毎月 20～30 程度のシートが投函されています。

さらに、箱ばこくんには会心 IPPON だけではなく、五中に対する意見もたくさん投書されています。箱ばこくんに投書された意見を執行部内で議論した上で、校長先生とミーティングをした結果、少しずつですが、校則が変更されることになったりするなど、学校は少しずつ進化を遂げています。

生徒会執行部としては、大切なことが三つあると思っています。一つ目は企画を考える時にアイデアがたくさん出る企画力、発想力。二つ目は企画を長く続けるための継続力。そして三つ目は企画を面白く楽しく改善していく発展力。私たちは、取り組みだけでなく、それらの力の次の学年へ引き継ぎ、五中のスローガンである「夢バトン」を渡せるようにしたいと思っています。

◆第七中学校◆

今回の中学生シンポジウムでは、「①七中スローガン」「②生徒会ボード」「③あいさつ運動」「④質問箱」「⑤生徒議会」の 5 項目についての報告を行いました。

まず「七中スローガン」については、今年度の生徒会スローガンである「～笑顔あふれる青春を、個性のある果実を添えて～」を紹介しました。昨年度のスローガンが「七中プラント」という植物を意識したものだったので、今年度は更に七中が成長しているという意味もあり、果実という言葉を入れました。

次に「生徒会ボード」と「あいさつ運動」の話をしました。それぞれ、執行部以外の生徒との繋がりを大切にしようという思いで行っています。「生徒会ボード」は、毎週月曜日に更新しているものです。内容は、その週にある行事などに関してお知らせしています。また「あいさつ運動」は、毎週月曜日と金曜日に校門前で行っています。

次に「質問箱」に関して、七中でも二年前に導入しました。質問箱に入っている投書を執行部でも議論して、必要なものは生徒議会でも図り、学校を変えるために運用しています。

最後は「生徒議会」です。七中の生徒議会では、各専門委員会の代表や執行部が集まり、学校全体のことを考えて話し合いを行っています。議論が活発になり、二回に分けて行ったこともあります。

◆第八中学校◆

シンポジウムに初めて参加したため、どのような雰囲気で行われるのか、どのような質問や意見が発言されるのか分かっておらず不安でした。

今年度のシンポジウムでは、本校は発表校だったため、第八中学校の校則改定の歴史について発表しました。いろんな学校の人たちの前で初めて発表したので、とても緊張しました。発表時間は3分に収めることはできませんでしたが、会場にいる皆さんがあたたく聞いてくださったおかげで、安心して発表することができました。さらに発表が終わった後の休憩時間に他校の方が質問に来てくださり、その熱心な姿勢を見て感動しました。

第二部では、校則改定や給食を中心とした各校が感じている疑問や考えを互いに共有し、各校が取り組んでいる活動の結果などを聴くことができました。どの学校も模索しながら各学校の課題解決・改善に向けて取り組まれているんだと知りました。

シンポジウム以前までは知らなかった豊中市内の学校の現状や、各学校の執行部の皆さんが日々感じている本音などを聞けてよかったです。シンポジウムで得た気づきを後輩たちに引き継ぎ、より良い八中にしていこうとしたいと思いました。本当にありがとうございました。

◆第九中学校◆

シンポジウムを通して自分の学校ではしていない取り組みを知ることができました。

第9中学校生徒会執行部の活動の中には、キューニバル（3学年のつながりを深めるために行う小さな文化祭）、カーティガン・ベスト登校、Tシャツ・短パン登校などにも取り組んでいます。

また、意見箱の活用があります。さまざまな意見が生徒会執行部に寄せられています。

そして今年は、4年振りに全学年での体育大会が開催されます。各クラス有

志による応援団や学年をまたいだ縦割りリレーなども取り入れ、9中生が一同となって体育大会に参加します。

◆第十一中学校◆

【あいさつ運動】

十一中では、学校全体で朝を気持ちよくスタートできるように毎週火曜日と金曜日の朝 8:20～8:30 の 10 分間、あいさつ運動を行っています。

委員会の人たちにも協力してもらい、一緒に行くこともあります。また、あいさつ運動についてのアンケートを取り、あいさつ運動の実態を見直したり、あいさつをかえす意識をもってもらえるように取り組んでいます。

【イレブンラジオ】

イレブンラジオは、毎週月曜日と木曜日のお昼、給食時間に実施している放送です。昼食の時間を明るくするために放送しています。内容はリクエストされた曲を流したり、クイズを出題したりというものです。他にも様々な企画を執行部メンバーがそれぞれ考えてきます。

【学校給食課との面談】

学校給食課の方と給食についてお話をする機会を頂きました。そこで給食が栄養バランスやカロリー数を基につくられていることや食品の安全性を考えて低温殺菌されていることなどを知ることができました。

また、生徒から出た給食への要望をお伝えしたり、給食課の方から配膳や片付けの仕方など学校で気をつけてほしいことも教わりました。

【生徒憲章を考える会】

十一中の特色であり、伝統でもある「生徒憲章」について考える時間を執行部でつくりました。準備した発問やパワーポイントをオンラインで各教室に配信し、生徒一人ひとりに生徒憲章について考えてもらいました。最後には 100 文字作文も書いてもらい、生徒全員が生徒憲章への理解を深め、よりよい学校生活を送っていくための時間になったと思います。

【50 周年記念事業】

十一中は今年で創立 50 周年を迎えます。それを記念して、スローガン旗を制作しました。旗には全校生徒の思いを基に、生徒議会で考えられた学校スローガン「Do 11s' Best ～Hi テンションな思いやり～」と校内投票で選ばれたマスコットキャラの「Mr11 中」が描かれています。イラストは美術部が協力してくれ、すばらしい旗が完成しました。

◆第十二中学校◆

十二中では、学年の壁を越えて楽しめるという催しを実施しています。それが「校長杯」というものです。校長杯というのは、1年生～3年生までが、同じ学年でチームを組み、学年を越えて対決をするというものです。昼休みに実施し、1日だけではなく、2日、3日かけて行います。2023年度第一回校長杯は「ケイドロ」を行いました。生徒が泥棒、教師が警察となり、ゲームは大いに盛り上がりました。今年度はまだ1回しか実施できていませんが、これから実施回数を増やしていきたいと思っています。

十二中として最後の方に、みなさんに質問したのですが、「校則を変える、キッカケ作り」に、十二中は苦戦しています。どこの中学校も校則を「変える」「変えられる」と言っていましたが、私たちは、「チャイム着席」や「忘れ物0（ゼロ）週間」などが達成できず、ズルズル進んでいます。

どのようにきっかけ作りをしているのか気になりました。どの中学校も、とてもいきいきしていて、発表するタイミングが上手くつかめませんでした。司会者の方が十二中を当ててくださったので、とても感謝しています。とても刺激を受けたので、もっと十二中の生徒会活動を活発化させていきたいと思いました。

◆第十三中学校◆

十三中学校の今年の前期の生徒会スローガンは「理想の学校」で、学校にいる生徒全員の理想になればいいと思い様々な活動をしています。その中で朝の挨拶運動を取り入れていますが、なかなか挨拶をしてくれなかったり元気がない人がいます。朝から楽しい気持ちになってもらうためにできることのヒントがあればいいなと思い今回のシンポジウムに臨みました。実行委員会の各校の発表の中で挨拶運動にアンケートを取り入れている学校も多く、十三中学校でも実施していこうと考えています。

また、学年の隔たりを少しでも無くすための取り組みも考えていきたいです。

◆第十四中学校◆

8月24日（木）シンポジウム当日、十四中生徒会の取り組みについて次のような内容の報告を行いました。

○十四中では、『Never Give Up ～大丈夫、私達みんながついている～』をテーマに活動してきました。これは、十四中のみんなでつながって、困っている人がいたら話を聞いたりして助け合おう・協力していこうという意味がこめられています。また、つながって、いい学校をつくっていくことをあきらめない！という意味もこめられています。

- 今年度は特に、『一四同体～個性と自由で広げよう～』をテーマに決めて活動しています。14中全体で気持ちを合わせて、いろんなことに前向きに取り組んでいこうという意味です。
- 毎週火曜日の8時15分から30分まで、生徒玄関前であいさつ運動をしています。あいさつを返してくれる人も増えてきています。
- 「つぶやき Boxes」を各クラスに設置し、生徒会に関する意見を募集しています。いただいた意見については、掲示板に貼って返答したり、新たな取り組みにむけて検討したりしています。
- 「つぶやき Boxes」での意見をもとに現在動いていることが3つあります。1つ目は、自習室の開放です。自習室をつくってほしいという意見があったので、どこかの部屋を開放できないか検討しています。2つ目は、昼休みの体育館開放です。体育館で遊びたいなどの意見があったので、全学年で交流できるような体育館開放を考えています。3つ目は、校則の一部改正です。ルールの一部をなくしてほしいという意見があったので、現在検討しています。先生たちとも相談しながら進めています。
- 体育大会の取り組みについてです。十四中では、全校生徒の交流のために、バラ・アジサイ・クローバー・タンポポの4つの団をつくり、協力して応援したり、応援合戦で全力で声を出したりします。

◆第十五中学校◆

▼スローガン

「勇気を持って友情のハイタッチ ～笑顔と安心と共に～」

▼活動内容

1. スローガン制作

- ・スローガンは生徒会執行部だけでなく、生徒議会で各委員会、各学年クラス代表からの意見を集約して決定しました。生徒・教師一同、このスローガンを大切に活動しています。

2. 募金

- ・緑の羽根募金活動を5月に行いました。生徒会執行部は募金期間中、毎朝、門の前に立って呼びかけをしました。各学年のクラス代表にも協力してもらいました。10月には赤い羽根募金活動も予定をしています。

3. いちご放送局

- ・十五中学校の目玉といえば、「いちご放送」です。毎週水曜日に生徒会執行部を中心に放送を行っています。委員会、クラス代表、クラブも一緒に放送を行うこともあります。放送は生徒たちから事前にリクエストされた「リクエスト曲」を流しています。放送内容は毎回生徒会執行部で考え、生徒たちが楽しい昼食時間を過ごせるように一生懸命取り組んで

います。今年度は「お悩み相談」という生徒たちからお悩みを募集し、生徒会が解決していくことも行っています。放送後はたくさんの生徒たちがリクエスト BOX に投票してくれるので生徒会執行部としてもやりがいを感じています。

4. いちご通信

- ・生徒議会での報告や生徒会から伝えたいことがある時に生徒会執行部で作成しています。生徒に配布し、職員室前にも掲示しています。

5. ビオトープフェス

- ・十五中学校には「ビオトープ」というみんなの憩いの場があります。ビオトープフェスとはそのビオトープ前で生徒たちの中から有志を募りダンスや歌、漫才などを披露するというものです。時には先生方にも出演していただくこともあります。今年度から生徒会がこのフェスの担当になり、生徒会は主に司会を担当し、有志の方と一緒にビオトープフェスを盛り上げる役目を担っています。

○昨年度同様、生徒会では日々の生活をより活性化させるためにはどうしたらいいか話し合っています。ルールやマナーの大切さ、仲間とは何かを考えて生徒同士のつながりを大切にし、自分も生徒会の大切な一員だという自覚を持って行動できるように日々、取り組んでいます。

◆第十六中学校◆

現在の 16 中の生徒会で取り組んでいる活動と課題について

【活動】

○活動方針（スローガン）

Believe yourself ～無限大の可能性を信じて～

中学生はどんなものにもなれる無限大の可能性を持っている。
さまざまなことに挑戦していくことが大切だと思いこめた。

○あいさつ運動（アンケート）

毎週月、金の 2 回、生徒全員が気持ちよく朝のスタートを切れるように活動している。昨年度始めたアンケートも継続中。

○M スマ

毎週火・木曜日の昼食時間にリクエスト曲を放送している。

○全校朝礼

生徒会執行部は、全校朝礼を円滑に行えるように、司会進行、全体指揮を行っている。

○意見箱の取組み

今年度から新たな取り組みとして、Microsoft forms による

オンライン意見箱を開始。

○体育大会

16 中では 3 学年を 5 つの団に分け、各団で昼の応援、競技中の応援、制作の 3 つのグループに分かれてそれぞれ活動し、応援を盛り上げている。

◆第十七中学校◆

<スローガン>

十七中のスローガンは、「seventeen best friends～ありのままで接し合える最高の仲間たち～」です。生徒全員が仲が良く、ありのままの自分で接することができる学校をめざすという思いが込められています。

<服装>

十七中には制服がありません。TPO(時間・場所・場面)をわきまえて自由服を楽しんでいます。

<活動内容>

1. 毎週水曜日、執行部とサポート執行部が朝の挨拶運動と「何でもアンケート」をとっています。生徒とのコミュニケーションを図り、執行部を身近な存在と感じてもらえるよう努力しています。
2. お昼の生徒会放送をおこなっています。曲を流す他に、ゲストを紹介したり、給食に関する話や「なんでもアンケート」の結果発表などをします。曲のリクエストや誕生日メッセージも受け付けています。
3. チャイム前着席運動をおこなっています。各クラスの議員(学級委員)がチャイムまでに座っていなかった人の人数を数えて提出し、上位 2 クラスには体育館開放などの景品を贈ります。
4. 夏には文化週間があります。毎年舞台発表と作品展示が行われ、有志の団体や部活動が協力しています。

<意見箱の活用>

各クラス、各フロア渡り廊下前、放送室前の 3 箇所に意見箱を設置しています。生徒会活動だけでなく、学校生活や部活動に関する意見も受け付けています。

<いじめ予防>

今年は豊中市教育委員会主催のいじめ予防活動推進事業に参加し、生徒会が協力してグッズ制作を進めています。前回参加した時は、当時のスローガンを入れたのぼりと下敷きを作りました。のぼりは朝の挨拶運動で生徒玄関前に立てています。

<シンポジウムの感想>

「みんなが楽しんで来ることができる学校への変化」というテーマについて、さまざまな項目で話し合うことができました。他校の方と議論ができる機会は貴重で、とても有意義な時間を過ごせたと思います。このシンポジウムで話し合ったことを生徒会活動

で活かして、より良い学校生活を送っていきたいです。

◆第十八中学校◆

十八中は、豊中市の中で一番規模の小さい学校です。十八中では小規模校であることを活かし、学年のみの関わりに留まらず、学年を超えた関わりも多く見られます。

- ・生徒会活動について

私たち生徒会執行部（以下執行部と略）は、5人全員ユニークな個性を持ち合わせた集まりです。私たちは積極的な意見を出し合い、より良い学校にするために尽力しています。私たち執行部は、生徒全員が参加できる学校づくりを目指しています。生徒全員の協力によって、生徒会活動が円滑になると考えるからです。また、私たち執行部以外の生徒たちも生徒会に積極的に生徒会活動に参加してくれます。具体的な活動としては、18中生が楽しめる校内イベントの企画や地域参加型ボランティアなどを行っています。このように私たちは、生徒会スローガンである「思いやりの心でつながる18中」を達成できるように様々な活動をしています。

- ・食品ロス(給食)について

十八中では給食をしっかりと食べてない生徒が多く、エネルギーが不足しているのではないかと感じています。成長期に十分な栄養が取れていないことや、食品ロスが多いことなどが問題になっている。シンポジウムで他校と交流することで考えの幅が広がりました。給食センターの方から講演をいただいたり、私たちが食について興味を持ち、もっとより深く知っていくということが大切なのではないかと考えます。私たちにできることはもっと沢山あると思います。

◆庄内さくら学園◆

今年度、開校したばかりの義務教育学校庄内さくら学園です。「さくら会（児童生徒会）」では、昨年度、3小1中の児童生徒全員の意見を集めて決めた『一人ひとりが主役となり、つながりを大切にし、学年を越えて助け合える学園をつくる』を活動目標として、さまざまな活動を実施しています。10中生徒会が10年以上前から取り組んできたプルタブ回収活動も、地域のみなさんの協力もあり、昨年3月にようやく800kgのプルタブが集まりました。4月の開校に合わせて車椅子に交換することができました。また、毎日実施している「あいさつ運動」では、たくさんの人に興味を持ってもらえる工夫をし、誰でも自由に参加できるようにしています。しかし私たちの庄内さくら学園さくら会は、

このような活動だけではなく、「日常的に思いやりのある行動」を大切にしています。義務教育学校だからこそ味わえる体験や絆をつくっていくことをめざし、これからのさくら会活動をよりよいものにしていきます。ありがとうございました。

第十七中への質問

Q（第十三中） チャイム着席の課題への具体的な対策について。

A（第十七中） 各クラスの学級委員から呼びかける。

第五中への質問

Q（第七中） 校長先生とのミーティングの頻度は。

A（第五中） 月に1回程度。

第十四中への質問

Q（第九中） 校則について、ヘアピンやヘアゴムの規定はどうか。

A（第十四中） 現在は、目立たない色のみとなっている。

第二中への質問

Q（第十三中） デジタルの目安箱に意見は多く集まっているか。

A（第二中） 一定程度の意見はあるが、最近は減少している。

第二中への質問

Q（第四中） Teams を活用しての投票のやり方は。

A（第二中） 体育大会のスローガン決めに Forms 機能を活用。

第十七中への質問

Q（第七中） サポート執行部とは。十七中のキャラクターは。

A（第十七中） 生徒会執行部の仕事を手伝ってもらっている。
40周年の時に生徒から案を募り投票で決まった。

第十七中への質問

Q（第一中） チャイム着席の長期的な取組みについての対策は。

A（第十七中） 1週間程度の短期間。

第十一中への質問

Q（さくら学園） 校則がないことでのメリット、デメリットは。

A（第十一中） ピアスや染髪等で先生が対応に困る。
生徒憲章について考える機会にはなっている。

第十一中への質問

Q（第四中） 校則についての授業の内容は。

A（第十一中） 1回目は、なぜ生徒憲章があるのか。

2 回目は、生徒憲章について考えを作文にする。

第八中への質問

Q（第 三 中） 他学年と交流した取組みは。

A（第 八 中） クイズラリーを実施。

第二中への質問

Q（第十八中） トイレの設備に対しての取組みは。

応援グッズの製作について。

A（第 二 中） トイレは、PTA や校長先生との懇談会で話をする。

クラスから一のうちわ、ポンポンを生徒会から貸出。

第八中への質問

Q（第十六中） 棒タイの自由化について。

A（第 八 中） 目安箱の意見を取り入れ検討。

試行期間を設けアンケートも実施。

◇意見交換

記録：第十三中学校

テーマ

みんなが楽しんで来ることができる学校への変化

【校則について】

第十五中：校則の改定について、生徒が気分よく過ごしやすい学校づくりを進めたい。

第四中：私服の学校への質問。私服でのデメリットは。

第十一中：自由服となると、過激な服装の人がでてくる。
なぜ、ダメなのかを先生や執行部が説明しないとイケない。

第二中：iPadの取り決めについて。
2中では授業に関係ないときはロッカーにしまっている。

第一中：使用しない時は、ロッカーの鍵を閉めておく。

第五中：ICT委員会で全校生徒にアンケートをとってiPadのルールを作成。

第十一中：テーマに沿って「みんなが楽しんで来ることができる校則とは何か」について話したい。

第十二中：12中は今、髪型、カーディガンの校則改定を考えている。
2学期以降アンケートとる。
先生と生徒で髪型の基準がずれている。そこを正していきたい。

第七中：あみこみ、髪型が以前話し合いになり、生徒指導の先生があみこみの例を提示しアンケートをとった。

第二中：頭髪や整髪料の校則がなぜあるのかを考えることが大事。
学校は、TPOを考える場でもある。
一概に整髪料をなしにしようという学校の意図もあるのではないか。

第十一中：校則はその学校の生徒がどのようにふるまってほしいかを示

しているもの。学校が求めている中学生像。

11中では自分たちで考えることに重きをおいているということ。

執行部の人たちは、その学校の生徒にどのようにふるまってほしいか、を考えて校則を改定していくことが、学校としての成長や改定を考えるとときの指標になる。

【給食について】

第2中：残飯がかなりあり、PTAとの懇談会でも話題にあがる。

第十八中：弁当を経験していない1年生はほとんど残さず食べる。

3年生は以前弁当だったので、給食はおいしくないと感じるため残す量が多い。

第十七中：先生が呼び掛けている。

食べる人と食べない人いろんな人がいるが、食べない人は健康維持によくない。給食当番がいらないと言われても少しは入れるようにしている。

第十一中：給食を変えたいという思いから執行部に立候補した。

アンケートをとり、学校給食課にデータを見てもらい、ご飯が5g減った。

塩分の決まりとか知らなかった。栄養士の話の聞いたりすることも大切な活動。

給食の献立表のとおり盛付けると、残飯が出ない。生徒会から入れる量が決まっていることを呼びかけると残飯が減る。

第十八中：ゼリーが他のおかずについたり、においがうつったりする。

給食が温かいのかも大切。

中学校は冷たいから改善できたらよいのでは。

第十一中：ゼリーは各校から不評がたくさん出たから改善されたそう。

給食は八尾市から届いている。

食中毒を防ぐため低温殺菌されるので冷たくなっている。

第十六中：3年は給食が足りない。他学年にもらいにしている。

【他学年との交流について】

第 一 中：他学年のフロアに行ってはいけないので、放課後に中庭で有志によるパフォーマンスの場を設けている。そこで仲良くなるようにしている。

第十二中：校長杯で、3学年合同のケイドロをした。つかまった人を助けるのは他学年のみ、警察は先生がする、という工夫をして仲が深まった。

さくら学園：9年生の廊下が広いので、そこに机をおいて交流。
日常的なつながりが大切。クラブ、休み時間を利用したらよい。

第十五中：ビオトープの前で有志によるコンサートをしている。
先生もダンスを披露、生徒も自分が得意なことをしている場になっている。

第十七中：2中に質問。
体育祭で縦割りを検討しているが、クラス数や人数の問題等がある。どのように取り組んでいるか知りたい。

第 二 中：コロナもあけて3学年ともクラス数が同じだったので、縦割りでの取り組み考えている。

第十八中：生徒の人数が少ないため、イベントをすることも大事だが、顔を合わせる機会を増やすことが大切。

第十六中：全校道徳で体育大会の縦割り団で交流した。

【全般にわたって】

第十一中：「校則をなくすのはありか？」をテーマにして議論したらどうか？
校則を考え直すきっかけにしたい。

さくら学園：さくら学園中のかの「別の学年のフロアに行ってはいけない

い」というルールがさくら学園でなくなった。
他学年との交流が増えたからよかった。

第 七 中：カーディガンの色の指定について議会で話し合った。
細かい部分のルールを考えるのが難しかった。
細かい部分より清潔感や TPO を考えたらということになった。

第 二 中：髪型の校則は「奇抜な髪型はさけること」とあり、明確な決まりはない。
どこまでなのかを生徒会で検討したが、明確なラインを決めるとそれはそれで困ることもあるということになった。
細かく決めた時に、守らない人が出ても意味がない。
一方で、抽象的にしてもデメリットがある。
しかし、共通して言えることは、学校の雰囲気大切。アカンことはアカンといえる雰囲気。
あいさつ運動で校内を明るくしたり、そんな雰囲気を作るのが生徒会の役割。

第 四 中：楽しんでくることができる学校は、自由が多いことに直結するのだろうか。
人を思いやれる、多様性等、気持ち的な部分の意識改革が楽しんでくることができる学校につながる。

第十二中：チャイム着席を達成したら校則を変えよう等のノルマを作った。
急に変えてもうまくいかないだろうからノルマを作ったが、達成できていない状態。
変えたりするきっかけがうまくいっていないが、他校はどうしているのかが気になる。

第 七 中：他学年との壁をなくすには他学年のフロアに行ってもよいにしたいが、チャイム着席等大丈夫か気になる。

さくら学園：短い休憩は遠くのフロアまではいけませんが、長い休み時間は予鈴があったり、先輩から声掛けしたりする。

◇生徒実行委員会委員長 開会あいさつ

豊中市立第七中学校

三木 夏希

まず初めに、7 月下旬に開催された実行委員会から期間が空いたにも関わらず、第一部では、6 校からの報告が行われました。そして発表校の報告を受けて、全員が緊張することなく、充実した質疑応答や話し合いの場となりました。

私自身、発表校の報告の中で“トイレ”などの生徒会だけでは改善するのが難しいことなど、興味を引く報告がたくさんありました。

次に第二部でも、今年度の豊中市中学生シンポジウムの『みんなが楽しんできて来ることができる学校への変化』というテーマのもと、“校則・給食・他学年との交流”の 3 つの内容について話し合いました。

具体的には、校則を変えることのメリット・デメリットや、給食メニューの改善・食の安全の観点からランチボックスが冷たい理由などについて、そして遊ぶときに他学年と関われるような遊び方を工夫すること・体育大会などで縦割りでの競技の方法などを話し合いました。それぞれ調べたり、担当者と話し合いの場を設けたりすることなどで、自分たちが知らないことを知り、より良い改善に繋げる方法を議論できたと思います。

最後に、今年度のテーマをそれぞれの学校で実現するために、地域や家庭と学校が協力し、それぞれの学校にあった雰囲気づくりのために挨拶運動や質問箱等、毎日行っていることにしっかりと力を入れていくことが大切だと思いました。そして、本日の話し合いで学んだことや知ったことを各学校で伝え、『みんなが楽しんできて来ることができる学校への変化』の実現に向けて取り組んでいきましょう。

◇参加生徒の感想

1) 生徒実行委員会（7月20日実施）について①

ハイブリッド開催（対面＋オンライン）は適していた

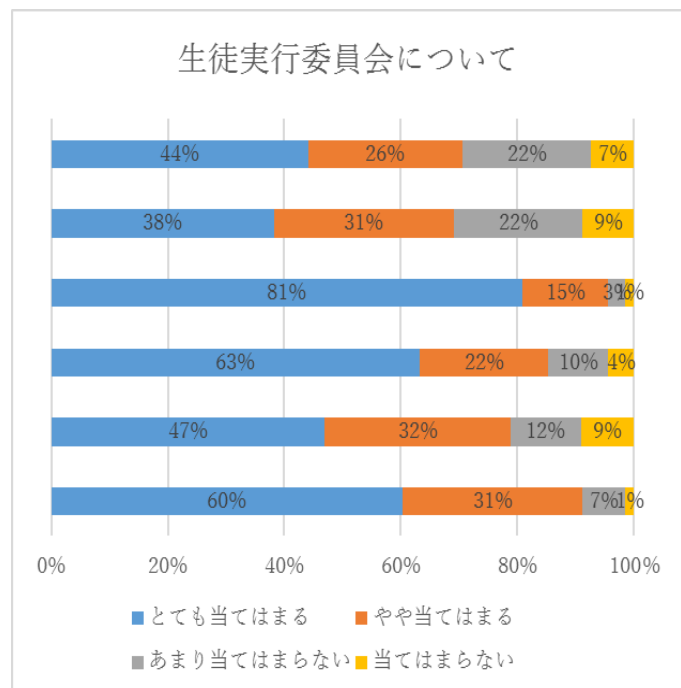
時間設定は適切であった

生徒会活動を進める上で良い刺激となった

各校1分間による学校紹介はわかりやすかった

役割極めにおいて積極的に参加できた

7月20日午後の日程設定は適していた



2) 生徒実行委員会（7月20日実施）について②

より良い内容にしていくための工夫があれば、自由に記載してください。

【抜粋】

- ・オンライン開催であればもう少し音質を良くすると思いました。
- ・各校の発表時間が、全体的に短いと感じたのでもう少し長くしたほうがいいと思います。

3) 中学生シンポジウム本番（8月24日実施）について①

ハイブリッド開催（対面＋オンライン）は適していた

時間設定は適切であった

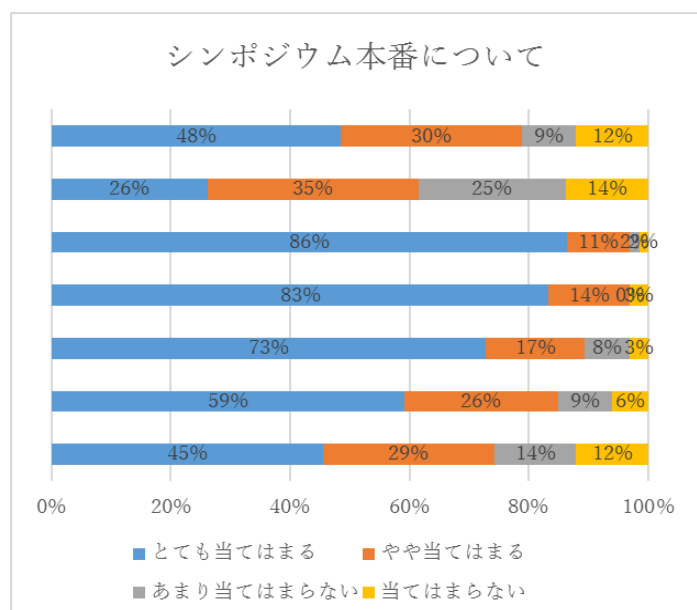
他校での取り組みがよく分かった

生徒会活動を進める上で良い刺激となった

企画委員担当校（6校）による発表はわかりやすかった

シンポジウムにおいて積極的に参加できた

2学期始業式前日午後の日程設定は適している



4) 中学生シンポジウム本番（8月24日実施）について②

より良い内容にしていくための工夫があれば、自由に記載してください。

【抜粋】

- もう少し長く時間をとった方が余裕をおった議論ができる。
- テーマと議題の内容をもっと一致したものにした方が関連性があるのでより良い話し合いができると思う。

5) その他全体について

ご意見がある場合にのみ、自由に記載してください。

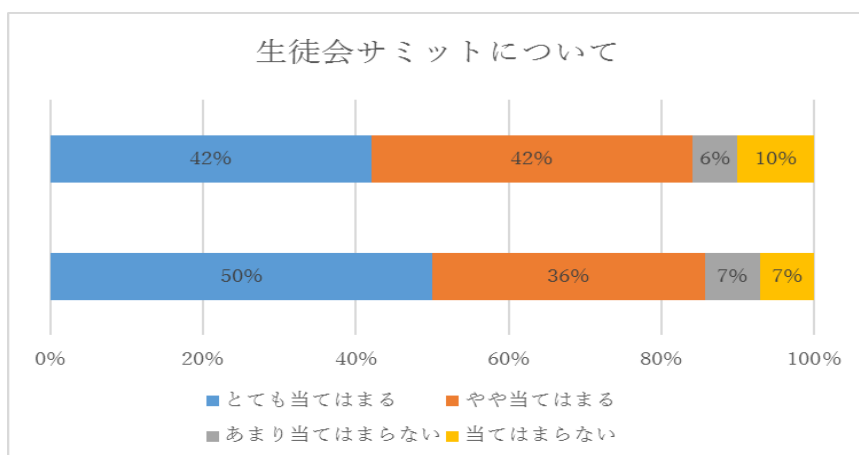
【抜粋】

- 時間が少なかった気がするので、もう少し増やしてほしいです。

6) 大阪府内の中学校生徒会が参加する「生徒会サミット」（11月実施予定 形態未定）について

機会があれば参加したい

興味がある



第 36 回豊中市中学生シンポジウム 報告集

豊中市教育委員会

豊中市中学生シンポジウム運営委員会

生徒実行委員会